

大学構内の一角に立つこの樹は、「ニッケイ」と呼ばれるクスノキ科の常緑高木です。学名は *Cinnamomum sieboldii*。一般には「肉桂（につけい）」や「和肉桂（わにつけい）」とも呼ばれ、英語ではジャパニーズ・シナモンと紹介されることもあります。クスノキ科 (*Lauraceae*) に属し、暖地に自生する照葉樹林の代表的な樹木の一つです。

葉は光沢のある濃緑色で、やや厚く、3本の葉脈が目立つのが特徴です。初夏には淡い黄白色の小さな花をつけ、その後、黒紫色の実を結びます。樹皮や葉をこすると、甘くさわやかな香りが立ちのぼります。この芳香成分はシナモンに似た精油によるもので、古くから香料や生薬として利用されてきました。樹皮は乾燥させて香辛料や漢方薬の材料となり、健胃・発汗作用があるとされています。



大学構内では名札が取り付けられ、学習用の樹木として親しまれています。とりわけ人気なのは、その素晴らしい香りです。樹皮をそっと触って香りを確かめると、ふわりと甘い匂いが広がります。理科の校外学習で訪れた小学生や子ども園の園児たちは、「いいにおい！」と目を輝かせます。植物の特徴を五感で体験できるこのニッケイの樹は、学びと発見のきっかけを与えてくれる存在です。